

名古屋地理学会 秋のシンポジウム

# 高等学校の新科目「地理総合」 の実施をひかえて2 —— 歴史教員・地理教員の立場から ——

日 時：2019年10月5日（土）13:00～16:30

会 場：中部大学名古屋キャンパス 610 講義室

主催：名古屋地理学会

後援：愛知県教育委員会、名古屋市教育委員会、岐阜地理学会、愛知教育大学地理学会

参加費無料、参加申込み不要（会員・非会員にかかわらず、どなたでも参加できます）

## 趣 旨

2022年度から実施される高等学校学習指導要領が2018年3月に公示されました。教科「地理歴史」では「地理総合」と「歴史総合」の2科目（いずれも2単位）が必修となります。昨年度のシンポジウムでは、「地理総合」の開講に向けて様々な取り組みをされている地理教員による授業実践が報告されました。参加された多くの現職教員をはじめ、地理教育関係者、出版社の編集担当者の方々から貴重な意見をいただき、新設されてよかったと思われるような「地理総合」にするため、今後の研鑽・努力の必要性を確認しました。

今年度は高等学校の歴史教員や、中学校でも教えている地理教員による「地理総合」への想い、あるいは歴史授業での古地図利用の取り組みなど、地理的分野に関連する報告もあります。教育関係者はもとより、地理と様々な関わりをもつ方々からご意見をいただくとともに、「地理総合」、ひいては地理教育のあり方についての意見交換をおこないます。

## プログラム

総合司会：柏木良明（岐阜聖徳学園大学副学長）

コーディネーター：溝口晃之（名城大学非常勤講師）

開会挨拶：林 上（名古屋地理学会会長、中部大学教授）

趣旨説明とパネリスト紹介：溝口晃之

基調講演：森田匡俊（岐阜聖徳学園大学准教授）「どんと来い、GIS！」

パネリストによる発表

和田麦彦（愛知県立惟信高等学校教諭）「日本史から『地理総合』を考える」

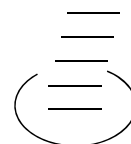
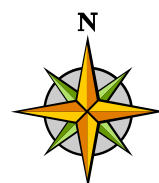
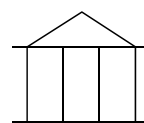
黒野峻太郎（愛知県立日進高等学校教諭）「歴史科目の指導を通して感じた、地理と歴史の連携の必要性」

佐藤俊樹（名古屋大学教育学部附属中・高等学校中学校副校長）「地理総合の垣根を低くする授業実践」

パネル・ディスカッション

コーディネーターのまとめ：溝口晃之

閉会挨拶：林 上



名古屋地理学会事務局

Email: [nagoya.geography@gmail.com](mailto:nagoya.geography@gmail.com)

<http://www.geog.lit.nagoya-u.ac.jp/nagoya-geo/>